

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol. 1

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



川のもこうの図書館

作者 池田ゆみる
出版社 さ・え・ら書房
発行 2018年2月
ISBN 978-4378015545

QRコードを読み込むと、サイトのロングレビューが参照できます。



『川のもこうの図書館』もまた図書館で調べることを通じて、誇りを取り戻していく少年を描いています。本の借り方がわからず図書館で雑誌を盗んでしまったことのある小学生の竜司。仕事を長続きしない母親のために転校を繰り返して、大人からちゃんと面倒を見てもらえない環境で戸惑い続けています。地域の歴史を調べる班研究で苦しい思い出のある図書館を訪ねた竜司は、本や資料を調べて班の仲間たちと知識を共有することで小さな自信を培っていきます。そして竜司が**図書館の本で料理を覚えられること**を知り、母親との生活を自分の力で変えていく姿にはグッとくるのです。

『むこう岸』の主人公である女子中学生の樹希は、生活保護家庭であることを同級生たちからかわれ、自棄になって「生活保護、ありがとう」と自分の体操着にマジックで書き殴り、クラスで孤立していきます。裕福な家庭に育った和真は同級生の樹希の複雑な心情を理解できません。困惑しながらも次第に樹希と親しくなっていく和真は、自分の将来を諦めて希望を失っている樹希のためにできることを模索しはじめます。やがて二人は生活保護という制度について**図書館で徹底的に調べる**ことで、この社会の不合理と戦おうとします。子どもたちが持つ自尊心がとても大切に扱われた物語です。

このところの国内児童文学では、現代の子どもたちがリアルで直面している深刻な問題にアプローチする挑戦的な作品が数多く登場し、子どもが貧困という重い題材もよく扱われています。シングルマザーで病気がちな母親には収入が少なく、生活保護や福祉に頼らなければならぬ。それを甘んじて受け入れられない子どもたちの葛藤も赤裸々に描き出されます。大人に助けを求めただけではなく、子ども自身が解決策を見つけ出していく。そのツールとして図書館が登場する物語があります。**図書館で調べる**ことが、子どもたちがこの過酷な世界と戦う術となるのです。



むこう岸

作者 安田夏菜
出版社 講談社
発行 2018年12月
ISBN 978-4065139080



祝 第59回日本児童文学者協会賞受賞

子どもたちには「**図書館で調べる**」という戦い方があります。



スピニー通りの秘密の絵

Under the egg.

作者 L.M.フィッツジェラルド
翻訳者 千葉茂樹
出版社 あすなろ書房
発行 2016年11月
ISBN 978-4751528631



その魔球に、まだ名はない

OUT OF LEFT FIELD.

作者 エレン・クライジス
翻訳者 橋本恵
出版社 あすなろ書房
発行 2018年11月
ISBN 978-4751529348



もつと楽しくワクワクするような図書館で調べる物語もあります。『スピニー通りの秘密の絵』は、調べていくと謎を解き、秘密の核心に迫っていくミステリーです。突然の事故で最愛の祖父を亡くしたセオ。生活力のない母親との暮らしを支えなければならなくなったセオは悲しんでばかりもいられません。換金できそうなものを探そうと、美術館の警備員であった祖父が遺した一枚の抽象画の秘密にセオは気づきます。絵の下に隠されたもうひとつの絵。ルネサンスから第二次世界大戦、そして現代に受け継がれた一枚の絵を巡るミステリー。調査を開始したセオは、美術品の鑑定家やインクの専門家そして資料探しのエキスパートである図書館司書の力を借りて真相に近づいていきます。謎解きの面白さもさきながら、変わり者が孤独な少女だったセオが**調べることを通じて人と繋がれるようになる成長物語**としての魅力にも溢れた作品です。

翻訳作品でもユニークな物語が刊行されています。『その魔球に、まだ名はない』というタイトルから、凄く変化球で活躍する野球少女の物語かと思いきや、実際、1957年にはどんなに野球が得意でも女の子がリトルリーグに加入することは認められていなかったのです。野球の道を閉ざされた失意のケイティは、学校の課題で自分のヒーローについて調べることになり、かつて女子のプロ野球選手や女子リーグが存在したことを図書館で調べつきとめていきます。彼女が**資料を発掘し、インタビュアーで裏をとっていく調査のプロセス**が実に読ませる物語となります。ケイティのレポートは大きな反響を呼び、社会をも動かしていきます。痛快でありながらちよつとした苦さもある。「名前のない魔球」が暗示するものについても考えさせられます。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.1

2019年6月1日発行
●発行人 きむらともお



@tomoostretch
Twitter 連携もしています。

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作受賞。同協会第10回、第11回長編児童文学新人賞佳作受賞



児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」について
<https://hakobune.wp-x.jp>



お問い合わせはこちらまで。

主に高学年向けの児童文学作品・YA作品を紹介する web サイトです。優れた作品を語り継ぐことで未来に遺していきたいと考えています。話題の作品から現在は書店流通していない作品まで、独自のテーマ設定による作品紹介も行っています。